

# 正しいごみの分別に取り組みましょう



敦賀市では、家庭ごみを**10分別**で収集しています。正しい分別は、ごみの適正な処理や循環型社会の形成推進につながります。もう一度、ごみ収集カレンダーなどで出し方の確認をお願いします。

ごみ収集カレンダーはこちらから⇒



敦賀市のごみの区分	
燃やせるごみ	小型複合ごみ
資源ごみ	水銀含有ごみ
ペットボトル	スプレー缶・ライター類
ピン	埋立ごみ
古紙	粗大ごみ

## 埋立ごみの出し方



- 丈夫な袋に入れて出してください。
- 鋭利な刃物などは、刃の部分をテープなどで巻いてください（最近、不用意に出された割れガラスで、作業員が収集時に大けがを負いました）。
- 土や石はごみではないため、収集できません。

## スプレー缶・ライター類の出し方



- 収集日に黄色コンテナ（透明ピン用と兼用）に入れてください（ピンの収集日と異なるようにしています）。
- スプレー缶やカセットボンベは、穴を開けなくても出せません（缶に穴をあけた場合でも資源ごみに入れてください）。
- スプレー缶などにはキャップ（ふた）をつけたまま出してください。
- 中身を使い切ってから出してください（使い切れない場合は、直接清掃センターに持ち込んでください）。

## 紙マスクの出し方



- 紙マスクは、再生できない紙（不織布）ですので、必ず燃やせるごみに出してください。
- 感染症防止のため、まず小袋に入れて口を固く結んでから燃やせるごみの袋に入れて出してください。

## ごみを出す場合は…



- ごみステーションには、必ず収集指定日の7時30分までに出してください。
- 収集日以外の日や収集が済んだ後のごみ出しはルール違反です。
- ステーションは、各町内会で管理・清掃をしていますので、他の区へごみを出すことは厳禁です。

## 次のものは直接持ち込みを！



- 粗大ごみや発火の危険性があるもの、路上散乱の可能性があるものは、清掃センターへ直接お持ち込みください。
  - ・布団、毛布、じゅうたん、家具類
  - ・充電式機器
  - ・充電電池（リチウムイオン電池など）
  - ・花火や爆竹など
  - ・クッションや枕の中のプラスチック粒など
  - ・大量のご飯粒や麺類など

## センターに持ち込む場合は…



- 自宅から出た産業廃棄物（自宅改修などを工事請負させて発生した建築廃材や流し台、便器など）を工事業者の代わりに持ち込むことは厳禁です。
- 木材や剪定樹木などは、1.5m以内の長さになるように切ってください。
- ロープやホースは1m以内、ビニールシート類は座布団くらいの大きさ（60cm四方）に切ってください。
- ストーブは、必ず灯油を抜いてください。

# 3R活動に取り組んでいますか？

**3R**とは、ごみを減らすための3つのキーワードであるReduce(ごみを減らす)・Reuse(ものを繰り返し利用する)・Recycle(使い終わったものを資源として再利用する)の頭文字を取ったものです。**10月は3R推進月間**です。改めて限りある資源の大切さを認識し、環境のために私たちができることから始めてみませんか。



## まずはご自分の生活を見直してみよう

皆さんは、毎月「広報つるが」に市民1人1日当たりのごみの排出量が記載されているのをご存知ですか？1人1日当たりのごみの排出量の目標は**“963g以下”**ですが、達成できていない状況が続いています。ご自身の生活を見直してごみの削減に取り組みましょう。

ごみ排出量情報(1人1日当たり)	
目標値	963g
令和3年度7月まで	1,062g
達成状況	99g超過

## 3R活動の実践例

もっと減らせるかも？



Reduce  
リデュース

- マイバッグを使う
- 詰め替え用の商品を選ぶ
- ばら売りの商品を選ぶ
- 簡易包装の商品を選ぶ
- unnecessaryな物を買わない

まだ使えるかも？



Reuse  
リユース

- 不要なものはフリーマーケットなどで必要な人に譲る
- 何度でも使えるリターナブル瓶を選ぶ
- 壊れても修理して長期間使う

生まれ変わるかも？



Recycle  
リサイクル

- ごみの分別を徹底する
- リサイクルされた商品を選ぶ
- スーパーなどに置いてあるリサイクルボックスを利用する

探してみよう!  
あなたの周りのできる

# 3R

持続可能な社会を目指すために、国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)は、今や世界中の様々な活動において大きなテーマとなっています。

大量生産・大量消費の現代社会において、3R活動は、SDGsでもテーマとなっている「地球の資源の枯渇」「地球温暖化」「海洋汚染」などの問題を解決するためにも大切な取り組みです。

ごみの問題は、SDGsの「目標12.つくる責任つかう責任」や「目標14.海の豊かさを守ろう」などでも、解決すべき課題として大きく取り上げられていて、世界の企業の間でも、ごみが出にくい製造方法、再利用しやすい原料を使った製品づくり、再生可能な素材の開発といった取り組みが広がっています。こうした新しい技術の開発は、地球の環境と資源を守りながら経済を発展させるために欠かせないものでもあります。

私たちが身近なごみ問題から、持続可能な社会の実現に向けてできることから始めてみませんか。



- 全部食べ切る習慣をつくる
- 食べきれない量を注文しない
- 万が一、残ってしまった場合は持ち帰る
- 外食編
- 安いかからといって買すぎない
- 買い物前に冷蔵庫の中を確認
- 残った料理はリメイクで
- 消費期限内に食べきる

**10月は食品ロス削減月間**です。10月は「食品ロス削減月間」です。日本では、本来食べられるのに捨てられる食品ロスが、612万トン(平成29年度推計)も発生しています。これは、国民1人当たり、毎日「飯茶碗1杯分を捨てている計算です。一方で、日本は多くの食料を海外から輸入しています。また、家計における食費の割合は約4分の1を占めています。日本の大切な文化である「もったいない」の心を大切に、できることから食品ロスに取り組みしましょう。